

---

# ある日の三千院家

もみじ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日の三千院家

### 【Nコード】

N2266J

### 【作者名】

もみじ

### 【あらすじ】

この話のCPはハヤナギですかね？

ですが、連載させている『ヒナギクの気持ちが届くまで』と違って

今回の話は恋愛要素がありません！！

シリアス(?)です。

だいぶ昔に友だちに「書いて!!」と言われた物です。

昔に書いたのもものすごく駄文です・・・

連載させている話のアイデアが浮かばないので、投稿します。

見てくださっている方はすみません。

## (前書き)

この話のCPはハヤナギですかね？

ですが、連載させている『ヒナギクの気持ちが届くまで』と違って

今回の話は恋愛要素がありません！！

シリアス(?)です。

だいぶ昔に友だちに「書いて!!」と言われた物です。

昔に書いたのもものすごく駄文です・・・

連載させている話のアイデアが浮かばないので、投稿します。

見てくださっている方はすみません。

その日は雲ひとつない穏やかな日だった・・・

「お嬢様〜!! 学校に行きましょう!!」

「今日は太陽が東から昇ってきたから休むのだ!!」

「ちよつ、お嬢様!? 何を言っているんですか!! 太陽が西から昇るのは某有名アニメの歌の中だけですよ!!」

「うるさい、うるさい!! 何があっても学校には行かんぞ!!」

「困った子ですね〜 ちょっとハヤテ君、耳を貸してください」

何かをハヤテに言っているマリア

「本当にこんなことで起きてくださるんですか?」

「はい 99%起きてくれますよ」

「分かりました!! では・・・ あゝあ、お嬢様が行かないのなら今日はヒナギクさんと一緒に行こうかな〜」

バツコーン!!

「何をしているハヤテ!! さっさと行くぞ!!」

「はい、お嬢様」

「では、いってきますマリアさん」

「うむ、行ってくるのだ!」

「いや、お嬢様と一緒に行くのはうれしいですね」

「そつ、そつか? / / / /」

「もちろんです　執事として主と登校できるのはとてもうれしいことですよ」

「『恋人として』との間違いではないのか?」

「えっ?　お嬢様、僕たちいつ、恋人になりましたっけ?」

「お前、クリスマスの日に私がほしいと言ったではないか!!」

「そっ、それは……お嬢様を誘拐しようとかけたことばです……」

「っ!? それは本当なのか?……」

「……はい」

「……く……だ……」

「はい?」

「お前はクビだ!! もう2度と私の前に現れるな!!」

「っ……分かりました……今までありがとうございました。借金はいずれお返しします……」

「そんなものはいらん!! さっさと私の前から消えてくれ!!」

「分かりました……今までありがとうございました……では、さようなら……」

そう言うと、ハヤテは歩き出し、ナギの目の前から消えた……そしてナギは泣きながら家へと帰った……

「ナギ!? 学校はどうしたんですか? それにハヤテ君は・・・」

「あいつはクビにした・・・」

「はい!? どうしてクビにしたんですか!？」

「あいつが悪いのだ!! あのクリスマスの日に私を誘拐しようとなどしたから・・・」

「っ!?・・・ すいません、ナギ・・・ 全て私が悪いんです・・・」

「なぜだ!!--・・・ もしかして・・・ お前は知っていたのか、マリア?・・・」

「はい・・・」

「どうして、教えてくれなかったのだ!!--」

「それは・・・ ナギが知るとハヤテ君をクビにすると考えたからです・・・」

「ああ!! クビにしたさ!! でも・・・ どうしてもっと早く教えてくれなかったのだ?・・・ そうしたら私はここまで落ち込まずにすんだのに・・・」

「ハヤテ君は確かにナギを誘拐しようと思いました・・・ しかしハヤテ君は親にあんな借金を背負わされていたのあなたを誘拐犯か



ら助けました・・・ ハヤテ君はとても優しい子なんです・・・  
だから私はつらい過去を背負っているハヤテ君に少しでも幸せにな  
ってほしかったんです・・・ たとえ、ハヤテ君とナギをつなぐも  
のに大きな爆弾が付いていたとしても・・・ いつかはその爆弾を  
取り除くことができると思っています・・・」

「そうだったのか・・・ 確かにハヤテは私を誘拐しようとしたが、  
誘拐犯から私を助けてくれたし、寒い中コートもくれた・・・ そ  
れに私がピンチのときはすぐに駆けつけてくれた・・・ な  
のに私はなんてことを・・・」

「ハヤテ君を探しますか？」

「当たり前だ！！ 三千院家の総力を挙げて早くハヤテの居場所を  
見つけ出せ！！」

「はい！！」

数分後

「ナギ、ハヤテ君の居場所が分かりましたよ！！」

「で、どこにいる？」

「え〜と・・・ 負け犬公園ですね」

「よし！！ 全速力で出発だ！！」

「はい！！」

（負け犬公園前）

「じゃあ、ここからは私一人で行ってくるから、マリアたちは先に帰っておいてくれ」

「はい。わかりましたよ、ナギ」

ベンチの上で座っているハヤテを発見

「ハヤテ・・・」

「お嬢・・・三千院さん！？・・・どうしたんですか？ もう僕が三千院さんの前に現れてはいけないんじゃないじゃ・・・」

「あの時はすまなかった・・・私が言いすぎた・・・だから、えっと、その・・・」

心を決めたナギ

「その・・・ もう1度、私の執事をやってくれないか？」

「っ！？・・・ ありがとうございます、お嬢様！！ これからよろしくお願いします！！」

「うむ！！ 前以上がんばらないと許さないぞ！！」

「では、お屋敷に帰りましょうか？」

「うむ！！」

・ 周りでは2人を祝うかのように鳥達がやさしい音色をかなでていた。  
・

(後書き)

見ていただいて、ありがとうございました!!

『ヒナギクの想いが届くまで』もよろしくお願いします!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2266j/>

---

ある日の三千院家

2010年10月11日10時53分発行